

「2016年の中国ビレット輸出と日本の鉄スクラップ輸出」

目 次

1. 中国のビレット輸出

- (1) 2016年の推定輸出量 ----- 1
- (2) 輸出量減の要因 ----- 2
- (3) 16年の向先 ----- 3

2. 日本の鉄スクラップ輸出

- (1) 輸出量史上第2位 ----- 4
- (2) 輸出向け先 ----- 4
- (3) 主要向先の状況
 - ① 韓国 ----- 5
 - ② ベトナム ----- 5
 - ③ バングラディシュ ----- 6

2017年2月6日

(株)鉄リサイクリング・リサーチ

代表取締役 林 誠一

2016年12月の両国の貿易統計が発表されたので、1-12月を累計し16年の輸出状況をとりまとめた。

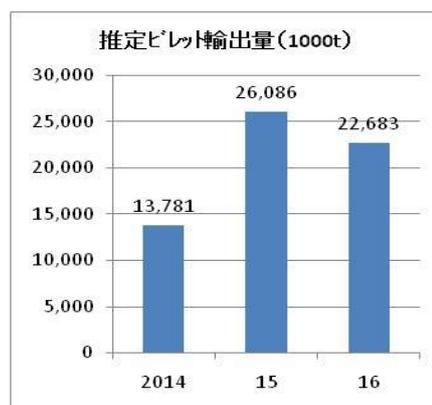
1. 中国のビレット輸出

(1) 2016年の推定輸出量

2,270万tと推定される。前年の2,600万tを340万t(13%)下回った。

ビレット輸出は鉄筋棒鋼内需低迷により、14年中ごろよりドライブがかかり15年計は2,600万tとなったが、16年は減少に転じた。しかし2,300万t近い高水準であることに変わりはない。

2,270万tは16年の棒鋼輸出3,036万t(日本鉄鋼連盟整理)のうち75%を占める。他は推定「本物合金棒鋼」647万t、ボロン添加合金棒鋼28.5万tであり、普通鋼棒鋼の輸出は92万t(棒鋼輸出の3%)程度となる。従って棒鋼輸出量3,036万tのうち13%の増値税還付を受ける対象はHS72283090全量の2,915万t(96%)にのぼる。



棒鋼輸出に占める推定ビレット

単位1000t、%

	棒鋼計	普通鋼	合金鋼	合金鋼		棒鋼輸出		
				ボロン鋼 72283010	その他合金鋼 72283090	本物	ビレット	内シェア
2014年	19,434	1,416	18,018	18	18,000	4,219	13,781	70.9
15年	31,605	1,281	30,324	18	30,306	4,219	26,087	82.5
16年	30,359	922	29,437	285	29,152	6,469	22,683	74.7
前年比	-1,246	-359	-887	267	-1,154	2,250	-3,404	
増減率	-3.9	-28.0	-2.9	1484.6	-3.8	53.3	-13.0	

備考;棒鋼計は日本鉄鋼連盟

「備考」中国はビレット輸出関税を16年1月より25%から20%に軽減したものの、通関実績はほとんどなく(16年は13,000トン)、余剰ビレットのはけ口を付加価値鋼材輸出奨励策として制定している「増値税還付制度13%」を享受することを目的に14年中はボロンを添加して合金鋼棒鋼(スクウェアバー、和名角鋼)としての輸出が始まった。しかし貿易摩擦回避からボロン優遇制度は廃止されたため、15年1月からはボロンでなくクロム等他の合金鋼を添加した「その他合金鋼棒鋼」(HS72283090)の品名コードを使用して輸出が継続されている。しかしながら本来この品名コードは機械構造用棒鋼など機械部品に使用される棒鋼を輸出する場合に使われており、「本物」が含まれる。このため単価の違いを根拠に区別することを試みたが、本物とビレットの両方を中国より輸入している国が多く、単価では判定が難しいことが判った。ここでは14年時点の「本物」シェアにより推計している。16年のHS72283090その他合金鋼棒鋼輸出量は2,915万tだが、うち本物棒鋼を14年の実績から約23%(647万t)と推計した(このシェアは国によって異ならせている)。

(2) 輸血量減の要因

16年を月次で見ると1-6月と7-12月では様変わりを示している。

上期計は1,350万tであり、年換算は2,700万tに達する過去最高レベルのスピードだった。しかし下期は一転して上期比32%減の920万tとなり、年換算1,840万tとなる（従って下期の価格状況が17年も続けば、17年は1,800万t前後となると予想される）。

① 輸出価格の上昇

減少要因の最大に価格の上昇を挙げる。ビレット価格（注；HS72283090の平均単価。本物の合金鋼棒鋼を含むため実際には20%以上低いと推察される）は14年初の500ドル台から低下の方向をたどり、16年初は260ドルまで

半減したが、その後上昇に転じ6月339ドルとなった後、強含みで推移し12月は372ドルとなっている。16年上期平均291ドルに対して下期は349ドルに約20%上昇した。この背景に鉄鉱石輸入価格の上昇があると推察される。鉄鉱石価格は上期平均52ドルが下期は64ドルに約24%上昇しているが、ほぼこの上昇率と一致する。

17年1月に入り現状70ドル後半で推移していることから、当分ビレット輸出価格はこのままでは競争力を失い低減していくと予想される（過去の推移から見て35ドル前後が分岐点か）。

② 鉄筋棒鋼の生産動向

ビレットを圧延して生産される16年1-11月からみた16年鉄筋棒鋼生産量は前年比1.7%減の2億100万tであり、前年比1.6%減の水準である。月次で見ると16年3月以降1,700万t台で横ばい推移し、特に動意は感じられない。マクロ指標である都市部固定資産投資の前年同月比伸び率は、16年2月～4月は10%台だったが、7月以降は8%台で推移している。

③ 高炉稼働維持との関係？

ビレット輸出340万t、13%減は、内需向け鉄筋棒鋼生産増によるものでなく、価格上昇による輸出競争力低下によるものと言えるが、高炉稼働の採算ラインまで耐えた結果とも推察される。8億tの生産に対して12億tの生産能力が存在すると言われており、政府は2020年まで1億5,000万tの削減を発表。うち16年は4,000万t削減を実施したとしているにも関わらず、16年の粗鋼生産は15年を上回る規模となっており、こ

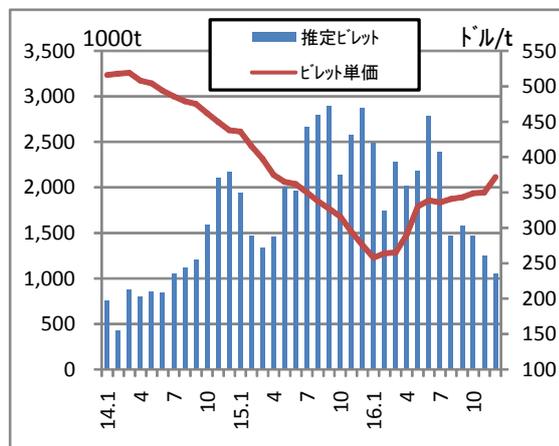
16年上下期の状況

単位1000t、ドル/t、%

	推定ビレット	ビレット単価	鉄鉱石価格
16.1-6	13,487	291	52
7-12	9,195	349	64
前期比	-31.8	19.8	23.6

備考；鉄鉱石価格＝上海入着スポット価格

中国推定ビレット輸出月次推移



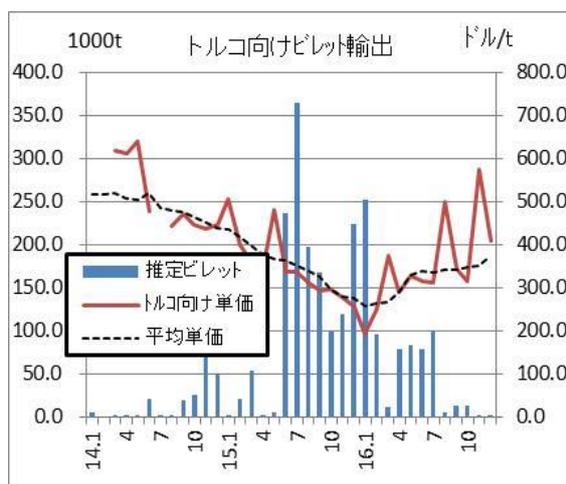
うした「ちぐはぐ」な実態が解消されるには、まだまだ時間がかかろう。従って17年も高炉稼働維持と輸出採算を天秤にかけた状態で輸出は継続すると考える。

(3) 16年の向け先

16年のビレット輸出2,270万tについて国・地域別向け先を集計し、前年と比較した。最大輸出地域はASEAN6カ国であり全体の46%を占めた。この比率は14年36.6%、15年36.5%は変わらなかったが、16年は10ポイント上昇している。うちタイ、インドネシア、フィリピンが韓国、中近東と共に、全体が減少するなか2桁台の高い伸びを示した。ベトナム向けは16年3月のセーフガード発令により、150万tから75万tに半減した。しかし月次で見ると全体的に前年比増加の国・地域でも年後半は減少に転じている。特にトルコ向けの15年比半減は、価格が大きく関係したと推察される。

中国ビレットの輸出先						単位1000t、%		
	中国のビレット輸出(推定)					粗鋼生産(WSA)		
	2014	2015	2016	構成比	前年比	2014	2015	2016
韓国	1,349	2,289	2,694	11.9	17.7	71,543	69,670	68,567
台湾	753	730	691	3.0	-5.4	23,121	21,370	21,570
香港	773	1,361	1,233	5.4	-9.4			
ベトナム	307	1,484	747	3.3	-49.7	5,847	6,050	
タイ	350	1,410	2,459	10.8	74.4	4,095	3,673	
シンガポール	842	992	565	2.5	-43.1	575	510	
マレーシア	296	539	659	2.9	22.3	4,316	4,100	
インドネシア	1,311	2,402	3,099	13.7	29.0	4,428	4,200	
フィリピン	1,943	2,686	2,974	13.1	10.7	1,196	1,140	
ASEAN6計	5,050	9,513	10,502	46.3	10.4	20,457	19,673	
インド	287	293	176	0.8	-39.9	87,292	89,027	95,618
バングラデシュ	93	811	377	1.7	-53.5	90		
パキスタン	197	347	300	1.3	-13.6	2,423	2,892	
中近東	1,434	1,857	2,228	9.8	20.0	29,986	29,429	
トルコ	193	1,493	732	3.2	-51.0	34,035	31,517	
アフリカ	1,201	2,413	2,026	8.9	-16.1	14,885	13,682	
中南米	398	769	680	3.0	-11.6	45,043	44,900	
その他	2,053	3,818	1,045	4.6	-72.6			
計	13,781	26,086	22,683	100.0	-13.0	1,669,894	1,625,400	1,628,500

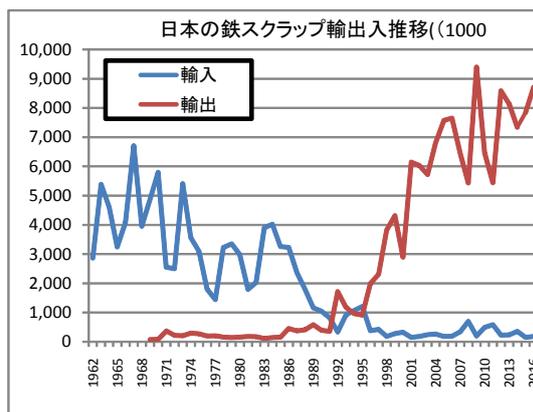
その他はEU、北米、豪州など。



2. 日本の鉄スクラップ輸出

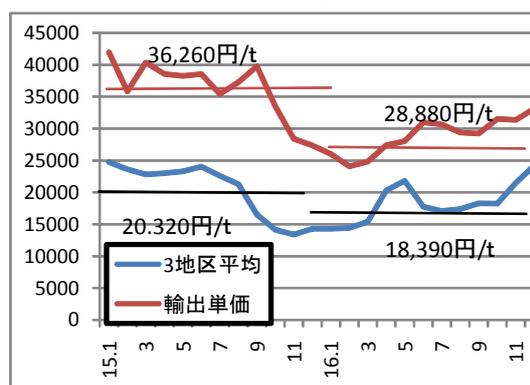
(1) 輸血量史上第2位

12月は85万tの高水準だったことも寄与して、年間計は871万tとなった。前年の784万tを87万t、11.1%上回り、12年の859万tを抜いて09年の940万tに次ぐ史上第2位の規模である。うち老廃スクラップである「その他くず」が727万t前年比13.7%増加し牽引した。その他くずの輸出平均単価は年後半に31,000円/台に盛り上げたものの、年間平均は28,880円/tとなり前年の36,260円/tから約20%低下している。このため売り上げ額（注；84%を占めるその他くず単価で全体を概算した）は、2,514億3,000万円となり、前年から11.1%低下した。量増加分、売り上げが減少した（＝低価格だったから量が伸びたとも取れる）ことになる。ちなみに09年時の売り上げ額は2,948億9,980万円だったので、09年比では量7.4%減、売り上げ14.7%減である。輸出単価11.1%減は、国内市況がH2炉前3地区15年平均2万320円/tから16年1万8,390円/tに6.9%低下したことなどを反映していると推察される。



データ：日本鉄源協会（財務省「通関統計」）

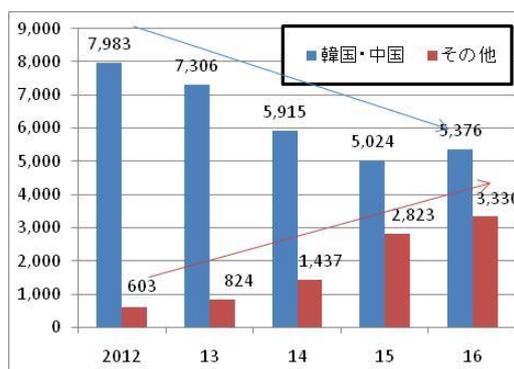
輸出単価とH23地区平均炉前価格の推移(円/t)



データ：日本鉄源協会

(2) 輸出向け先

主力の韓国は344万tとなり、310万tまで低下した前年を少し持ち直した。しかしピークの12年486万tに比べれば約30%低い。第2マーケットの中国は09年約500万tを記録したが、以降半減し14年～16年は200万t前後で「雑品」主体に推移している。16年の194万tは近年増加が著しいベトナムに抜かれて3番目のマーケットとなった。一方、ベトナムは198万tとなり、前年の158万tを25%上回った。14年比では2.6倍増となる。



向け先を韓国+中国とその他の2グループに分けてみると、韓・中国向けは12年800

万 t から 16 年は 540 万 t に 260 万 t 低下したが、その他が 60 万 t から 330 万 t に 270 万 t 増加し、韓・中国減少分をカバーしている。その他ではベトナムが 60% を占めるなか、バングラやインドなど遠隔地への転進も行われ、1.5 万 t や 2 万 t 級の大型船出航元年ともなった。17 年は中国のビレット輸出動向が不透明だが、韓・中国減とその他増の構図は続き、その他ではベトナムを軸に遠隔地への模索が鮮明化して行くと想定される。

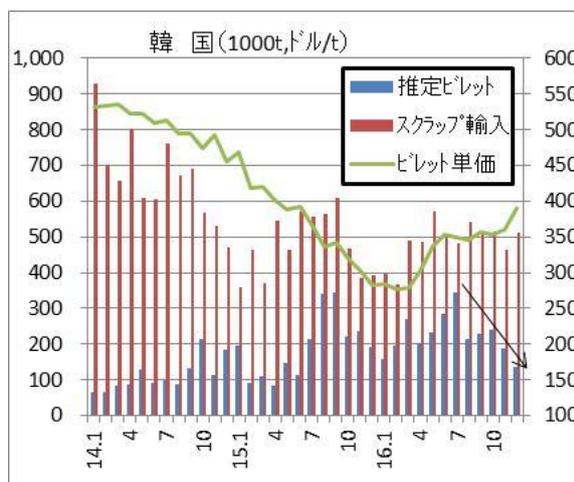
(3) 主要向け先の状況

① 韓国

15 年は安価な中国ビレット入着増により、スクラップ輸入減となり、日本の輸出もその影響を受けて低下した。

16 年の粗鋼生産は前年比 1.6% 減で伸び悩んでいるなか、電炉粗鋼は回復したのだろうか？ 推定した中国ビレット入着は 15 年を更に上回る 270 万 t となる一方、スクラップ輸入量も 584 万 t となり、前年を 8.3 万 t 上回った。これに応じて日本の輸出も増加した。米くずとの価格競争力も寄与したと思われ、韓国における日本のシェアは 4 ポイント増加して 59% となり、米国は 2 ポイント低下して 15% を示した。韓国向け中国ビレットの月次の動きは、7 月の 34.4 万 t は 12 月は 13.5 万 t に 6 割落ちている。背景に価格が年初の 280 ドル/台が 6 月以降 350 ドル/t 台となり 12 月は 390 ドル/t まで上昇していることが指摘される。一方スクラップ輸入は 50 万 t 前後であまり変化がない。すなわち韓国のビレット購入採算は 350 ドル前後にあらうかと想像すれば、17 年はここまでビレット単価が落ちなければ、スクラップの輸入は現状の月間 50 万 t レベルで続くと予想する。

	2016	2015	2014	15年増減	16年増減
電炉粗鋼		21,170	24,246	-3,076	
中国ビレット	2,694	2,289	1,349	940	404
スクラップ輸入	5,840	5,757	8,002	-2,245	83
日本輸出	3,438	3,104	3,808	-704	334



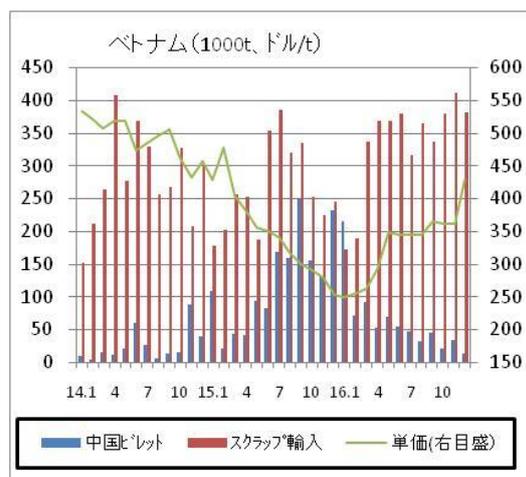
② ベトナム

16 年 198 万 t は中国を抜き第 2 のマーケットに浮上した。ベトナムは 16 年 3 月にビレット輸入に関して 23.2% の輸入関税（セーフガード）を発令した。このため元からある輸入関税 9% を加えた 32% の高関税を支払うことになり、中国のベトナム向けビレット輸出は前年の 148 万 t は 75 万 t に半減した。代わってスクラップ輸入が復活し、16 年の輸入量は過去最高の 400 万 t 越えとなった。うち日本のベトナム向け輸出量は 198 万

ベトナムの輸入量

	中国ビレット	ビレット単価	スクラップ輸入	合計
2014	307	492	3,375	3,682
2015	1,484	348	3,194	4,678
2016	747	330	4,003	4,750

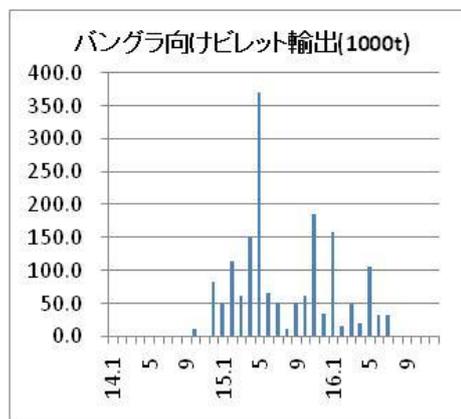
t なので、日本シェアは約 50%ということになる。セーフガードについては 2020 年をゼロとして今後毎年 2%ずつ軽減していくという方針を発表しており、向こう数年は安定的なスクラップマーケットとして位置づけられそうだ。輸入ビレットと輸入スクラップの合計を棒鋼市場規模とみなすと、16 年の 475 万 t は前年比 1.5%増であり、今後、縦貫鉄道や道路、港湾整備等のインフラ整備計画から市場規模の拡大も期待できよう。



しかし、陸路を接する中国からアンダーでスクラップがすでに入ってきているとの情報や、中国廃鋼鉄応用協会が所管に対して輸出関税 40%の軽減申請を意図しているとの情報（国内老廃スクラップの回収を活性化させる目的と推察される）があり、やがてベトナムが中国産スクラップに侵食されることも考えておく必要がある。

③バングラディッシュ

16年に日本はバングラディッシュに 20.8 万 t 輸出した。輸出は 15 年の 4.7 万 t から始まり、16 年は 5 倍増となる。一方、中国ビレットのバングラ向け推定輸出量は、15 年の 120 万 t から 16 年は 40.8 万 t に激減した。月別にみると 8 月以降入着実績がない。価格が折り合えず購入していないと想定されるが、輸入関税を設けるなど国内保護政策を設けたのか調査する必要がある。いずれにせよ生産規模や設備状況など判らない点が多いにも関わらず、テロリズムの問題が現地調査をし難くしている。



調査レポート NO 39

「16年の中国ビレット輸出と日本の鉄スクラップ輸出」

発行 2017年2月6日(月)

住所 〒300-1622 茨城県北相馬郡利根町布川 253-271

発行者 (株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一

<http://srr.air-nifty.com/home/> e-mail s.r.r@cpost.plala.or.jp